

ラテンアメリカにおける水道事業の民営化

～ 地域住民を中心とした水管理のために～

外国語学部イスパニア語学科 4 年

A0154028 黒川晶子

水循環には、天然資源と流域のマネージメントに関わる大きな水の循環、飲料水と衛生に関わる小さな水の循環という 2 つの循環があることをふまえた上で、本論文ではラテンアメリカに地域を絞り主に後者の上下水道について論じることとする。最終的な目的は、地域住民が水道事業に関する政策をコントロールするにはどうしたらよいか、また、地域住民を中心とした水管理を実行するためにラテンアメリカにおいては何が重要なのかを提示することである。

経済政策の背景の概観の結果、ラテンアメリカにおける水道事業の民営化が 1990 年代に集中している理由、およびラテンアメリカの大部分の諸国の民営化契約のレベルは、「コンセッション契約」である理由が明らかになった。ラテンアメリカにおいては、債務問題と民営化が密接な関係をもっており融資の際に IMF や世界銀行の提示するコンディショナリティーに民営化が含まれることがほとんどである。水道事業に限らず、このコンディショナリティーが大きな後押しとなって 1980~1990 年代のラテンアメリカにおける急速な民営化が始められたのだ。民営化の形態を「コンセッション契約」とすることもコンディショナリティーのうちの一つであったと考えられる。

また、事例研究で考察した結果、地域住民を中心とした水管理を実現する為には、契約形態・規制機関・分権化と市民参加の度合いが鍵であることや、特に水道事業においては、地方自治体のレベルが高いことが成功の秘訣なのではないかという結論を導いた。

第一章では、上記の大きな水循環と小さな水循環について、今日世界で起こっている水問題にはどのような事柄があるのかを概観する。第二章では、ラテンアメリカに地域を絞り、第一節で一般に世界で議論されている「民営化」とは何か、また本論で用いる民営化という言葉の範囲を定義する。第二節では(1)でラテンアメリカ水道事業の特徴を挙げる。企業との契約の種類によっては、水道事業民営化実行の際に民間企業へ委託するのが運営のみなのか、もしくは資本投資の責任・権限まで委託するのかが左右されるのだが、ラテンアメリカ諸国がどの契約形態を採っているのかということと、各々の国の民営化実行の年を明らかにし、契約形態別・時代別に分類することによって傾向を導き出す。(2)でその特徴がなぜ存在するのかについて、民営化に至った背景をラテンアメリカの経済政策の歴史の観点から説明し、政策の背景から適正な価格設定やサービス提供を実現可能なことが想定しうる民営化計画であったのかを探る。第三章では、ラテンアメリカで行われた水道事業の民営化の事例を挙げ、具体的にどのようなことが行われたのかを考察し、現在起こっている民営化反対運動とその過程も紹介する。第四章ではまず第一節において、第二章・第

三章から考察したことを元に、ラテンアメリカの水道事業民営化において地域住民を中心とした水管理を実現するためには、コミュニティはどういった方法・力を持ちうるのかを考察し、第二節で国際金融機関と途上国の水道事業民営化に関する関係を分析する。第二章のうち(1)では国際金融機関の中でも、構造調整政策やコンディショナリティーと深い関わりをもっている世界銀行とIMFについて、機関本来の機能や設立された理由および運営方法を紹介し(2)では本論で頻繁に用いられてきた「コンディショナリティー」についての詳細を説明する。そして(3)で水道事業民営化も含む、国際的機関によって推進されてきた開発援助における歪みを明らかにする。最後に(4)で構造調整政策の失敗などによって大きな批判の声が寄せられるようになってきた世界銀行を変革する可能性はあるのかどうかについて論じる。また、変革のためにこれまでに行われた活動を紹介する。第五章では、第一章から第四章までに論じたことをまとめ、最後に、ラテンアメリカの水道事業民営化において、地域住民を中心とした水管理を実現するためにはどのような点が重要なのかを述べる。

主要参考文献

- ・ 大野泉『IMFと世界銀行 内側からみた開発金融機関』日本評論社、1998年。
- ・ 大野泉『世界銀行 開発援助戦略の変革』NTT出版、2000年。
- ・ 岡本美恵子「水道事業の民営化～地域住民にとって望ましい水管理のあり方とは～」上智大学卒業論文、2003年。
- ・ Olivera Oscar and Tom Lewis, *COCHABAMBA! WATER WAR IN BOLIVIA*, South End Press, 2004.
- ・ 小池洋一・坂口安紀・三田千代子・遅野井茂雄・小坂允雄・福島義和 編、『図説ラテンアメリカ』日本評論者、2001年。
- ・ 小池洋一・西島章次編『ラテンアメリカシリーズ ラテンアメリカの経済』新評論、1997年。
- ・ 国連開発計画(UNDP)『人間開発報告書 2003 - ミレニアム開発目標(MDGs)達成に向けて -』国際協力出版会、2003年。
- ・ ジェフリー・ロスフェダー『水をめぐる危険な話 - 世界の水危機と水戦略』河出書房新社、2002年。
- ・ 鷲見一夫『世界銀行 開発金融と環境・人権問題』有斐閣、1994年。
- ・ 世界銀行、田村勝省訳『世界開発報告 2004 貧困層向けにサービスを機能させる』シュプリンガーフェアラーク東京、2004年。
- ・ Budds, Jessica and McGranahan, Gordon, "Are the Debates on Water Privatization Missing the Point? Experiences from Africa, Asia and Latin America," *Environment and Urbanization* 15(2), 87-113, 2003.
- ・ 掘坂浩太郎・細野昭雄・長銀総合研究所『ラテンアメリカ民営化論：先駆的経験と企業会社の変貌』日本評論社、1998年。
- ・ モード・バーロウ、クラーク・トニー、鈴木主税訳『「水」戦争の世紀』集英社、2003年。